

第二学年一学期期末テスト【国語科】問題

No. 1 令和3年6月17日実施

* 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。また、字数制限のあるものは、すべて句読点を含めて答えなさい。

二年 組 番

一 次の一線部の漢字はひらがなに、ひらがなは漢字に直しなさい。【知・技】各1点【10点】

- ① 唯一の楽しみだ。 ② 町全体が寂しい。 ③ 新しい計画に携わる。 ④ 麦芽から作られた飲料。 ⑤ 効果が顕著に見られる。
⑥ おじが遊びに来る。 ⑦ やわらかい粘土。 ⑧ クラスめいぼを見る。 ⑨ 手紙にはいけいと書く。 ⑩ 情報をしゅうしゅうする。

二 次の熟語と同じ構成の熟語を後のア～クから選び、記号で答えなさい。【知・技】各2点【10点】

- ① 頭痛 ② 消火 ③ 濃霧 ④ 勤務 ⑤ 細分化

ア 開閉 イ 絵画 ウ 青空 エ 読書 オ 国営 カ 練習帳 キ 好都合 ク 雪月花

三 次の一線部の語の品詞名を下のア～クから一つずつ選びなさい。【知・技】各1点【10点】

- ① おそらく彼女はやってくるだろう。 ② 姉はその部屋にいる。 ③ のどかな風景が続く道だ。
④ 苦しければ助けをたのもう。 ⑤ いいえ、違います。 ⑥ 暖かさが増してくる。
⑦ みごとな虹が浮かんだ。 ⑧ 練習は今終わったところだ。 ⑨ それはずいぶん前に買った本だ。
⑩ 風が吹いた。そして、雨も降ってきた。

ア	動詞
イ	形容詞
ウ	形容動詞
エ	名詞
オ	副詞
カ	連体詞
キ	接続詞
ク	感動詞

四 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。【思・判・表】各3点【15点】

1 ①行目、②行目と対応している行の番号をそれぞれ書きなさい。また、このような

① 空の上には

- ② もっと青い空が浮かんでいる
 - ③ 波の底には
 - ④ もっと大きな海が眠っている²
 - ⑤ 胸の奥で
 - ⑥ ことばがはぐくんでいる優しい世界
 - ⑦ 次の垣根で
 - ⑧ 蕾をさし出している美しい季節
 - ⑨ 少し遠くで
 - ⑩ 待ちかねている新しい友だち
 - ⑪ あんなに確かに在るものが
 - ⑫ まだここからは見えないだけ³
- (牟礼 慶子「見えないだけ」より)

2 「空」とありますが、これはどのような空ですか。次のア、エから一つ選びなさい。

ア 今見えている空

イ まだ見えていない空

ウ 雲がかかった空

エ 日が暮れかかった空

3 「海が眠っている」に見られる表現技法の名前を漢字で書きなさい。

4 「見えないだけ」とありますが、作者は何が見えないと言っているのですか。七字で書き抜きなさい。

5 この詩にこめた作者の思いとしてふさわしいものを次のア、エから一つ選びなさい。

ア 今の段階から成長していけば、存在しないものまで見えてくるようになることを知ってほしい。

イ 今はまだ見えなくても、あなたたちのまわりにはもっと豊かな世界が広がっていることを知ってほしい。

ウ 見えていないということは「無」に等しいので、自分の力で見えるようにしなくてはならない。

エ 見えないものを無理矢理見ようとししないで、自然に見えてくるのをじっと待つべきだ。

第二学年一学期期末テスト【国語科】問題

No. 2 令和3年6月17日実施

五次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。【思・判・表】各3点【15点】

それから、ぐうちゃんがまた僕の家に戻ってきたのは、九月の新学期が始まってしばらくした頃だった。顔と手足が真っ黒になっていて、パンツ一つになると、どうしても笑いたくなって困った。

残暑が厳しい日だった。久しぶりにぐうちゃんのほら話を聞きたいと思った。またからかわれてもいい。暑いから、今度は寒い国の話が聞きたい感じた。

ところが、ぐうちゃんの話は、でっかい動物のでも、暑い国のでも、寒い国の話でもなかった。

「旅費がたまつたから、これからまた外国をふらふらしてくるよ。」

ぐうちゃんは突然そう言った。「でもまあもう少し。」にはこんな意味があったのか。ぐうちゃんはいつもと変わらずに話を続けている。それなのに、ぐうちゃんの声は²どんどん遠くなっていく。気がつく³と、僕はぶっくらぼうに言っていた。

「勝手に行けばいいじゃないか。」

ぐうちゃんは、そのときちょっと驚いた表情をした。何かを話しかけようとするぐうちゃんを残して僕は部屋を出た。

それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。母は、そんな僕たちに、あされたり慌てたりしていたけれど、父は何も言わなかった。

十月の初めに、ぐうちゃんは小さな旅支度をして「いそろう」を卒業してしまった。

出発の日、僕は、何て言っているのかわからないままぐうちゃんの前に立っていた。ぐうちゃんは僕に近づき、あの表情で笑った。そして、何も言わずに僕の手を握りしめ、力の籠もった強い握手をして、大股で僕の家を出ていった。

「ほらばっかりだったじゃないか。」

「いそろう」がいなくなってしまった部屋の前で、僕はそう思った。

(椎名 誠「アイスプラネット」より)

1 「顔と手足が真っ黒になっていて」から、どんなことがわかるか、十五字以内で書きなさい。

2 ① 「どんどん遠くなっていく」は、どんな様子を表しているか、次のア～エから一つ選びなさい。

ア 僕の体力がどんどん弱っていく様子。

イ 僕の興味がしだいに薄れていく様子。

ウ ぐうちゃんの声が小さくなっていく様子。

エ ぐうちゃんの話が頭に入って来ない様子。

②この表現から、「僕」のどんな気持ちがわかるか、二十五字以内で書きなさい。

3 「勝手に行けばいいじゃないか。」という言葉からは、僕のどのような心情が伝わりますか。次のア～エから一つ選びなさい。

ア ぐうちゃんの決意を尊重しようと考え、心配をかけないように見せている。

イ さびしく思う気持ちとは裏腹に、ぐうちゃんの旅立ちを心から喜んでいる。

ウ いそろろを卒業することをぐうちゃんと共に喜び、晴れやかな気持ちになっている。

エ せっかく歩み寄ろうとした矢先に突然外国行きを告げられ、腹を立てている。

4 「ほらばっかりだったじゃないか」とありますが、ここから「僕」のどんな様子がわかりますか。次のア～エから一つ選びなさい。

ア 自分もいつか旅に出たいと意気込んでいる。

イ すぐに帰ってくるだろうと期待している。

ウ うそつきがいなくなってせいせいしている。

エ さびしく思う気持ちを隠して強がっている。

第二学年一学期期末テスト【国語科】問題

No. 3 令和3年6月17日実施

二年 組 番

六 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。【知・技】1・2は各3点【6点】【思・判・表】その他は各3点【9点】

大阪市内では、Aクマゼミの占める割合が、これほど高くなったのか。私たちは、幼虫が「②孵化して土に潜る段階」に注目した。「仮説2」でも述べたとおり、雨が降ると土がぬかるんでやわらかくなり、幼虫が地面に潜りやすくなる。B、都市化の進んだ大阪市内では、地表の大半が舗装されており、セミは地面に潜れない。C、公園などに残された土も、人の足で踏み固められ、ヒートアイランド現象の影響で乾燥しきっている。雨が降っても、野原や森林の土のように、ぬかるむことはない。私たちは、図1に示した抜け殻調査をする際に、それらの地点の土の硬さも測定していた。その結果、クマゼミが多い市内の公園は土が硬く、クマゼミが少ない市外の緑地や森林は土がやわらかいことがわかった。私たちは、この¹違いに注目し、次のような仮説を立てた。

「仮説3」クマゼミの幼虫は土を掘る力が強く、ヒートアイランド現象による乾燥と地表の整備によって硬化した地面にも潜ることができる。

この仮説を検証するために、私たちは、セミの幼虫が土に潜る能力を実験で比較した。まず、四段階の硬さに押し固めた土を用意して、そこに孵化したばかりの幼虫を入れた。そして、一時間以内に潜れるかどうかを観察した。結果が図7である。クマゼミは他のセミと比べ、硬い土に潜る能力が圧倒的に高かった。乾燥と地表整備で、他のセミが潜れなくなるほど硬くなった地面にも、クマゼミだけは潜ることができる。これが、大阪市内でクマゼミの占める割合が高まった原因と考えられる。²

（沼田 英治「クマゼミ増加の原因を探る」より）

1 Aに入る副詞を書きなさい。

2 B、Cに入る接続詞の組み合わせとして適切なものを次のア～エの中から一つ選びなさい。

ア	B	しかし	—	C	さらに
イ	B	それで	—	C	つまり
ウ	B	そして	—	C	だから
エ	B	例えば	—	C	ところが

3 「この違い」とは何の違いか、十五字以内で書きなさい。

4 筆者は「仮説3」を検証するためにどんな実験をしたか、空欄に入る言葉をそれぞれ四字で書きなさい。(完答)

クマゼミの幼虫が (D) 能力を他の三種類のセミと (E) 実験。

5 「大阪市内で」割合が高まった原因²とありますが、クマゼミが増えた原因は何だとわかりましたか。三十字以内で書きなさい。

第二学年一学期期末テスト（国語科）問題

No. 4 令和3年6月17日実施

七 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。〔知・技〕1は各1点〔3点〕〔思・判・表〕その他は各2点〔12点〕

〔A〕春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

〔B〕夏は夜。月のころはさらなり、闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

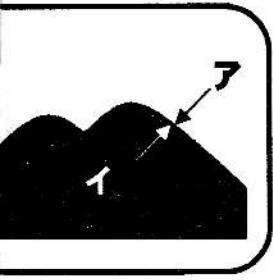
〔C〕秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。

〔D〕冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火などいそぎおこして、炭も渡るもいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりてわろし。（清少納言「枕草子」より）

1 ア「なほ」、イ「近う」、ウ「言ふべき」を、現代仮名遣いに直して、すべて平仮名で書きなさい。

2 「たなびきたる」の主語にあたる言葉を書き抜きなさい。

3 左の図の矢印ア・イが指す部分を、文章中からそれぞれ書き抜きなさい。（完答）



（意味）

ア 空の、山に接するように見える辺り。

イ 山の、空に接する部分。

4 ☐ Bには堂の飛ぶ情景を二つ挙げているが、「多く飛びちがひたる」²と対比されるもう一つの情景を文章の中から書き抜きなさい。

5 ☐ Cの中で、作者が視覚で捉えたものを二つ抜き出さない。(完答)

6 「言ふべきにもあらず」³と同じ意味で用いられている言葉を四字で書き抜きなさい。

7 ☐ Dの中で、どのようなことを作者は「わろし」⁴と言っているのですか。二十字以内で書きなさい。

八 作文の問題は解答用紙の裏面にあります。忘れずに書いてください。【思・判・表】各2点【10点】